



# ソーシャルイノベーション・ダイアログ開催 日本・スウェーデン外交関係 150 周年記念事業

スウェーデン大使館 政治経済担当官 アップルヤード 和美

1868年11月11日、スウェーデンと日本は友好航海通商条約を締結し、外交関係を開始しました。今年には外交関係樹立150周年にあたることから、さまざまな周年行事が予定されています。ここでは、「ソーシャルイノベーション・ダイアログ」など、今年行われた行事の一部をご紹介します。

## 高齢化社会に伴う社会課題への対応について二国間でアイデア交換

スウェーデン大使館が主催する大規模事業の第一弾がこの「ソーシャルイノベーション・ダイアログ—日本とスウェーデン/ソーシャルイノベーションの試験台として」であり、2月14日に東京ウィメンズプラザで開催されました。スウェーデン側からはSKL（スウェーデン地方政府連合会）の協力を得て、日本側からは厚生労働省、総務省、自治体国際化協会、全国知事会、読売新聞社の後援をいただきました。200名以上の参加者が会場を埋め、シンポジウムの後は大使館の大使公邸に場所を変え、83歳のアプリ開発者として有名な若宮正子さんを特別ゲストとしてお迎えし、レセプションが行われました。

ソーシャルイノベーションの定義はいろいろありますが、今回はケア分野に絞り、日本とスウェーデン両国から事例発表という形でソフト・ハード両面の革新的なアイデアを紹介してもらい、高齢化社会ははじめ両国がかか

えるさまざまな社会的課題のソリューションを考えるという趣旨でした。日本、スウェーデンから各3事例と、両国による共同研究を1事例、計7事例をとりあげました。日本からは埼玉県入間市、長野県による取り組みのほか、複数自治体連携型大規模健幸ポイントプロジェクト、日本とスウェーデンの共同研究として高齢化に関する国際リビングラボ・プロジェクトについての発表がありました。

入間市と長野県からは、それぞれが行っている「見守り」についての発表で、入間市は徘徊の対策として爪に貼るQRコードについて、また、長野県は独居老人の安否確認のため水道メーターにセンサーをつけて異常を親族に知らせるといった取り組みを紹介してもらいました。筑波大学からは、複数自治体で実施されている、歩くことに着目した健康寿命促進のための健幸ポイントプロジェクトの発表がありました。

スウェーデンからは、まずSKLのCEOよりケア分野での労働力不足に（スウェーデンのケア分野は公的機関がほとんどを担当しているため、SKLはこの分野のワーカーの雇用者という面がある）に関して、働き方の見直しで対処する案が提示されました。その後システムイノベーション庁から地方自治体のイノベーション能力を高め、実現にむすびつけるためのイノベーション・ハブという制度の紹介があり、スウェーデン北部の遠隔過疎地の医療に関する技術的ソリューション（バーチャル・メ



挨拶に立つマグヌス・ローバック駐日スウェーデン大使



事例発表者全員によるパネルディスカッション

ディカルルーム)の発表もありました。企業発表として、日本からは保育へのIoTの導入、スウェーデンからは電動車いすの紹介がありました。

日本とスウェーデンの共同研究については、東京大学の秋山弘子教授から発表があり、「活力ある高齢社会の実現にむけた国際連携型リビング・ラボの創出」という題で、両国で取り組んでいる、商品やサービスを実際の消費者である高齢者に実生活で試してもらうというプロジェクトについて発表されました。これは産学が地域のコミュニティとの連携で行うプロジェクトであり、日本では鎌倉市の中でも高齢化率が著しい今泉台で行われています。JST(科学技術振興機構)がスウェーデンのシステムイノベーション庁と行う国際科学技術共同研究推進事業で採用された4件の「日本-スウェーデン共同研究」の一つです。

## カール 16 世グスタフ国王の来日

本件については4月に来日したスウェーデン国王・王妃も鎌倉を訪問され、プロジェクトが実施されている今泉台に足を運び、秋山教授から説明を受けました。

説明会場には退職後に家をオフィスとして働くための家具が展示されたり、自動的に危険を検出して止まる仕組みを搭載した車などが展示され、国王は車の運転席に座り熱心に説明を聞きました。また王妃からはスウェーデンで開発された高齢者が椅子から立ち上がりやすくなるためのクッションが秋山教授にプレゼントされました。

王妃は認知症に関心が深く、自らも認知症に関する取り組みに関わっていますが、今泉台でも地元の認知症の方が集まるデイサービスを訪問しました。ここでは、リビング・ラボのプロジェクトで試されているコミュニケーション・ロボットのデモンストレーションもありました。

また雨にも関わらず、住民の方から熱烈な歓迎を受けました。



鎌倉市の今泉台を訪問し、移動途中で秋山教授に質問するカール 16 世グスタフ国王とシルビア王妃(後方)



ワーキングデイわかば(鎌倉市)を訪問し、利用者と交流する国王・王妃、高円宮妃久子様

実はこのソーシャルイノベーション・ダイアログは今年が初めてではなく、昨年もSKLから日本に50人ほどの視察訪問があり、その折に同様の趣旨で事例紹介を行っています。スウェーデンからは移民を迅速に統合し、就職を促進する制度、ヴェステロース市の介護分野へのIT導入の紹介があり、日本からは小豆島の健康寿命促進の取り組み、埼玉県介護にロボットを取り入れる事例などが発表されました。

特に姉妹都市提携をしているわけではありませんが、このような自治体による社会問題解決のための取り組みを広め、また共通の課題について国際的に知見を交換する機会を設けることは非常に意義深いことであると感じています。ソーシャルイノベーション・ダイアログというイベント名のとおり、二国間での対話をこのような形で持てたことは、二国間関係の発展の新たな形としても有効ではないかと思います。

そのほか今年は3月にスウェーデンのオステルヨートランド県から県知事を始めとする訪日団が、福岡、東京、仙台、札幌を訪問し、教育やビジネス、観光についてのプロモーションや視察をしたのに加え、ソレフテオ市と北海道の枝幸町との姉妹都市交流30周年記念(7月)、岡崎市とウッデバラ市の姉妹都市提携50周年記念、など地方都市との交流も盛んに行われています。昨年は北海道の当別町とレクサンド市との姉妹都市提携30周年記念事業で盛大な祝賀イベントが行われましたが、今年もレクサンド市があるダーラナ県からダーラナシンフォニアの訪問が9月に予定されています。

150周年については特設ウェブサイトイベントや交流の歴史などの情報がありますのでぜひご覧ください。

<https://swedenjapan150.jp/>